

アイヌ民族文化研究センターだより NO.27

2007年9月

ひでぞう
山田秀三文庫の資料から

伊達市の「ワッカオイ」



上の写真は、1955（昭和30）年の調査記録〔YF0413〕より。流れの傍に座る山田秀三氏。

右の写真は、1973（昭和48）年の調査記録〔YF0050〕より。付近の地図を描き、地形などの説明が書かれている。

地図の中央を斜めに横切っているのが現在の国道37号線。地図の中央やや右上、文字や記号の書込みが混み合っているあたりが湧き水の場所。

若生 わっかおい

〔伊達市の〕長和（長流）から有珠に行く街道は広い台地を越える。その台地上った辺が伊達市若生町で、〔中略〕wakka-o-i（水・ある・処）の意。

〔中略〕昭和30年通った時には、僅かに低い沢形の処が道路を横切っていて、そこに幅40センチぐらいの小溝が流れていた。

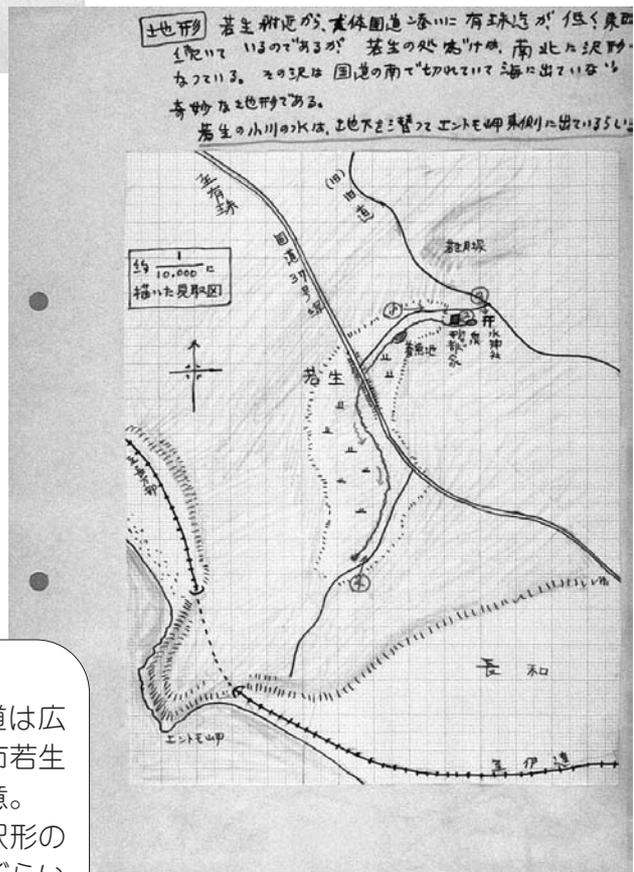
付近の農家で聞くと少し山側で水が湧いて流れている〔中略〕手ですくって飲んだら実にうまかった。正にワッカオイであった。

山田秀三『北海道の地名』（草風館、2000年）より

●もくじ

山田秀三文庫の資料から

- 伊達市の「ワッカオイ」…………… 1
- 『ボン カンピソシ』の写真から〔3〕
- 噴火湾の木綿衣…………… 2
- フィールドからデスクから
- 「サヨンの歌」とアイヌ語と………… 3
- 公開している資料から〔1〕
- 「沙流川下流域の地名調査」… 4
- 寄贈を受けた資料…………… 6
- お知らせ…………… 8



*これらの資料は、室蘭市、伊達市の企画展会場で展示します。

企画展

「アイヌ語地名を歩く」 （10月14日まで）

詳しくは8ページをご覧ください。

『ポン カンピソ』の写真から [3] 噴火湾の木綿衣

当研究センターは、1995（平成7）年度から2004（平成16）年度まで、毎年1冊ずつテーマを定めてアイヌ文化を紹介する小冊子『ポン カンピソ』を発行してきました。このコーナーでは、小冊子に掲載した写真の中から、毎回1枚の写真を取り上げ、紙面には盛り込めなかった説明などを補いながら、小冊子の中身を広げていきます。



これは、小冊子2「着る」16ページに掲載した、木綿の着物の写真です。木綿衣は地域により違いがありますが、小冊子2では伊達市有珠地方の着物の例として掲載しています。

この着物は、1914年に来日し、北海道とサハリンとでアイヌの資料を収集したバラートシ・バログが、ハンガリーの国立ブダペスト民族学博物館に収めたものです¹。この着物の特徴は、細長く裂いた色布ないし染め文様などの布を、貼り合わせて文様を作っていることです。

小冊子8「民具」11ページにも、同じようにして文様を施した着物を掲載しています。これは、ロシア共和国サンクトペテルブルグ市にある、ロシア科学アカデミー人類学民族学博物館に収蔵されているものです。同館の台帳では、収集年は不明、収集地は千島となっています²。

小冊子8では、「千島で収集されたものです」と収集地だけの説明をしました。製作地の説明をしていないのは、一つには、千島の着物の資料が皆無に近く特徴が分らないこと、二つには、この着物が噴火湾の着物として知られるものの特徴を備えていたからです。

* * * * *

資料の背景情報のうち、収集地・収集年・収集者は、その資料を収集した時のデータです。ところが、製作地・製作年代・製作者・使用地は、その資料の来歴が明らかでなければ付け加

えることができません。

小冊子8の着物は、収集地以外のデータが不明確です。収集地が千島でも、その資料に他地域の特徴があるような場合は、製作地の特定は慎重に行わなければなりません。そこで、材質や製作技法などの情報で比較を行います。

両方の着物を比べてみます。着物の作り方の特徴として、木綿の生地を和服風に仕立て、背を中心に細長く裂いた色布ないし、地文様のある布を貼り合わせて文様を施している点は同じです。一部に絹布を用いる点なども類似していますし、脇に襷があること、縫い糸としてイラクサの繊維が使われていることなどが共通しています。これらのように細長く裂いた色布を組み合わせて文様を施す着物は、「ルウンペ」や「色裂置文衣」と呼ばれ、噴火湾地域から白老地方の着物であるとされています³。伊達市の善光寺にも、同様の着物が所蔵されています。

小冊子8の着物も、上記の特徴を備えていますから、噴火湾地域で作られた可能性が高いといえます。それが千島で収集された理由として、噴火湾地域の人が千島に渡りそこで作った着物が残されたか、または噴火湾

地域で作られた着物が千島へ渡った、などが考えられます。

海外の資料に比べて国内の資料には、製作地や年代を特定できる情報が少ない場合が多く、アイヌ民具と呼ばれる資料の地域差や時代的変遷の研究が遅れています。そこで、背景情報のある資料の調査を基に、背景情報のない資料についても地域差や年代差を研究できる資料とするための作業を行います。この時、何が特徴として挙げられるのかが問題になります。

小冊子に紹介した着物では、文様の付け方、襷の有無、縫い糸の素材などが比較の対象となりました。それでも、年代については比較できる情報がなく、今後の課題として残っています。

1 『ブダペスト民族学博物館所蔵 バラートシ バログ コレクション 調査報告書』1999 北海道立アイヌ民族文化研究センター

2 SPb-アイヌプロジェクト調査団『ロシア科学アカデミー人類学民族学博物館所蔵アイヌ資料目録』1998 草風館

3 『アイヌ民俗資料調査報告』1968 北海道教育委員会

公開している資料から [1]

山田秀三文庫音声資料「^さ流川^る下流域の地名調査」[公開用資料番号：YC800001～8]

当研究センターでは、2003（平成15）年度から、寄贈を受けた「山田秀三文庫」「久保寺逸彦文庫」及び職員が採録した資料などの公開を開始しました。今年4月現在での公開資料の点数は、音声・映像資料約200点、文書資料約30点、写真資料約500点にのぼっています。そこで、「センターだより」紙上で、これまでに公開している資料の中から幾つかを取り上げ、その特徴や意義、あるいは関連する情報などをお知らせすることにしました。この連載が、資料の利用のための一つのガイドになれば幸いに思います。

今回紹介するのは、アイヌ語地名研究者の山田秀三氏が、1967（昭和42）年7月から10月にかけて、日高地方の沙流川下流域で行った地名調査の録音テープです。

テープは全部で9本、公開資料での録音時間は約10時間あります。

調査の全部または一部に、アイヌ口承文芸研究者である久保寺逸彦氏や萩中美枝氏、同じ沙流川沿いの平取町二風谷の萱野茂氏が同行して

います。久保寺逸彦氏が同行した7月の調査については、オリジナルのテープが久保寺逸彦文庫にあります（久保寺逸彦文庫での資料名は「アイヌ語地名 沙流川下流」1～4、公開資料番号KC800001～04）。



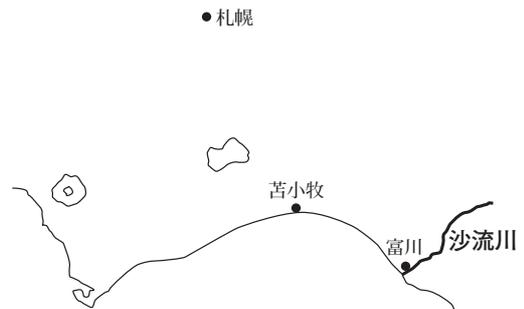
原資料のカセットテープ

* * * * *

これらの資料の第一の意義は、いうまでもなく、地名調査の記録としての重要性です。

このときのすべての調査に、平賀さだ（さだも）氏ら地元の伝承者が同行し、一つ一つの地名について、文献の記述や地図の記録と、現地の地形や地元の伝承とを丹念に付き合わせた調査が行われています。沙流川下流域の、およそ10キロ四方あまりの地域で、延べ5日間をかけてこのような内容と方法で綿密に調べた記録は、道内でも他にあまり類がないと思います。

山田秀三氏の著作にも、平取の紫雲古津の近



現地調査を撮影した写真 [KP1303-004-15]

くにある鹿獺に関わる地名を明らかにした経緯を述べた「ユックチカウシ物語」（『北海道の文化』17号、1969年）や、沙流川筋の地名の例をたくさん紹介している「北海道のアイヌ地名十二話」（『アイヌ民族誌』、1969年）など、このときの調査の成果をもとにしたものが多く見られます。

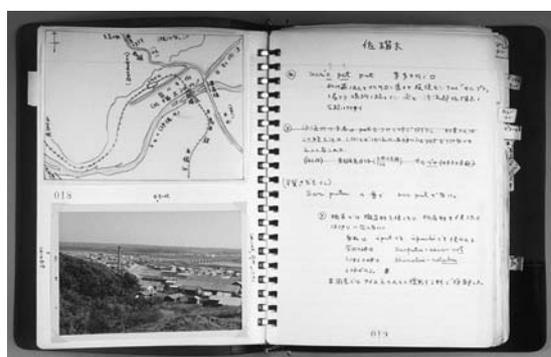
また、山田氏の地名調査のようすを録音したテープはきわめて少ないので、この点でも貴重な資料だと思います（当センターの資料の中でも、他に寿都での地名調査の録音 [YC800014] と、旭川の江丹別や幌加内での地名調査の録音 [CC800112] があるのみです）。

* * * * *

もう一つ、この資料の特徴は、これに関連する資料がたいへん多く残されていることです。

もともと、山田氏の地名調査資料には、現地調査の記録とともに、事前に古地図や文献などを調査した資料などが多く残されています。今回の調査についても、調査の計画や記録をまと

めたと思われるファイル（「The 1 st. MEMO沙流」[YF0154]、「沙流川下流 1」[YF0181]、「沙流 2」[YC0182]）のほか、事前の準備のメモや、当日に聞き取りした内容を書き込んだと思われる5万分の1地形図（[YM0258-02] など）などがあります。このほか、「(地名調査準備資料) 主要な地図に残された／沙流川中下流のアイヌ地名」([YM0258-01/049-02])と題されたB5判9枚の文書は、表題のとおり、古地図・古記録から沙流川中下流域の地名を抜き出して整理したものです。青焼きコピーが複数作られており、調査の同行者に配付したものと思われます。久保寺逸彦文庫の写真資料の中には、このときの現地調査を撮影した写真も残されています([KP1303-004])。



現日高町富川付近の調査記録より [YF0181]

なかでも、東京の早稲田大学で開催されていた「アイヌ史研究会」で、山田氏がこのときの調査について講演している録音テープ（[YC800019] 及び [KC800017, 18]）は、たいへん貴重な記録だと思います。この講演は同じ1967年の11月に行われ、金田一京助氏も出席し、会の冒頭では金田一氏が自らのアイヌ語研究の足跡の回想を語っています（これも貴重な記録です）。そして山田氏は、アイヌ語地名研究の恩師でもある金田一氏に対する報告というかたちで、この調査の目的、計画、方法、経過報告、成果などを説明しています。山田氏が自分の地名調査について自ら丁寧に解説した録音は、他にあまりないと思われます。

会場には久保寺逸彦氏や萱野茂氏も出席しており、地元の伝承や丸木舟の扱い方などについて語っています。また、山田氏らの話の一つ一つに、金田一氏が「ほお…」と頷きや驚嘆の反応を示すようすが録音からうかがえるのも、た

いへん興味深く、他では得難い録音になっていると思います。

* * * * *

今回紹介した資料は、山田秀三文庫と久保寺逸彦文庫の両方が当センターに寄贈されたことによって、これらがひと揃いの資料群になり、資料の整理においても、内容の理解を深める上でも大いに助かったという例でもあります。

このように、山田秀三文庫と久保寺逸彦文庫には、資料それ自体が重要であることはもちろん、他にいくつもの関連資料があり、それらを相互に参照することで、より豊かな内容になる例が多く見られます。資料の公開準備にあたっては、なるべくこうした関連資料についても情報を提供できるよう努めていますので、利用にあたって、こうした情報を参照していただければ有難く思います。

*文中の [] は当研究センターの資料番号を表します。

*本文中で紹介した資料のうち、音声資料及び写真資料は全て公開しています。文書資料は公開準備中です。

今回紹介した資料

原資料番号	タイトル	時間(分)	公開用資料番号
山田秀三文庫音声資料			
YC000001	(沙流川下流域の地名調査 1)	—	—
YC000002	沙流川下流域の地名調査 2	63	YC800001
YC000003	(沙流川下流域の地名調査 3)	—	—
YC000004	沙流川下流域の地名調査 4	45	YC800002
YC000005	(沙流川下流域の地名調査 5)	—	—
YC000006	沙流川下流域の地名調査 6	50	YC800003
YC000007	沙流川下流域の地名調査 7 (その1)	49	YC800004
	沙流川下流域の地名調査 7 (その2)	43	YC800005
YC000008	沙流川下流域の地名調査 8	59	YC800006
YC000009	沙流川下流域の地名調査 9 (その1)	40	YC800007
	沙流川下流域の地名調査 9 (その2)	38	YC800008
久保寺逸彦文庫音声資料			
KC000091	アイヌ語地名 沙流川下流 1	70	KC800001
KC000093	アイヌ語地名 沙流川下流 2	67	KC800002
KC000092	アイヌ語地名 沙流川下流 3	64	KC800003
KC000094	アイヌ語地名 沙流川下流 4	51	KC800004

[YC000001, 03, 05] は [KC000091~93] からの複写であることが判明しているため、試聴には [KC800001~03] をご利用いただいています。

寄贈を受けた資料 (2007年2月～8月)

発行者名の50音順に資料名を掲載しています。資料を寄贈していただいた方々・機関にお礼申し上げます。

アイヌ語地名研究会

・アイヌ語地名研究会会報 第29、30号
アイヌ文化振興・研究推進機構
・くまのしっぽがみじかくなったわけ
平成19年度 アイヌ語ラジオ講座テキスト Vol.1、2

・パイェアン ロ ふれてみようアイヌの文化〔2007年3月増刷〕

・paye-an ro Let's Experience Ainu Culture!〔2007年3月増刷〕

・アイヌの人たちとともに その歴史と文化〔2007年3月増刷〕

・Together with the Ainu - History and Culture-〔2007年3月増刷〕

・アイヌからのメッセージ2007 現在から未来へ

・平成18年度普及啓発セミナー報告集

青森県・青森県教育庁・青森県環境生活部史編さんグループ

・あおもりの縄文 縄文遺跡群を世界文化遺産に

・青森県史 民俗編 資料 下北

・青森県史叢書 青森県の暮らしと建築の近代化に寄与した人々

・青森県史だより 第15号

青森県立郷土館

・青森県立郷土館だより Vol.37 No.1～4、Vol.38 No.1、2

・調査研究年報 第31号

・青森県立郷土館報 第34号 平成19(2007)年度版

浅井学園大学短期大学部

・浅井学園大学短期大学部研究紀要 第45号
旭川市博物館

・旭川市博物館研究報告 第13号

・旭川市博物館所蔵品目録 XⅦ 民族資料／儀礼関係：木幣類1

アジア・太平洋人権情報センター

・国際人権ひろば No.72、73

厚真町教育委員会

・上幌内モイ遺跡(2)

いしかり砂丘の風資料館

・エスチュアリ No.27、28

イタハチャラ同人

・イタハチャラ 第5号

伊能忠敬記念館

・伊能忠敬記念館年報 第8号 平成17年度

・特別展「伊能図里帰展Ⅱ 鷹見泉石コレクションから」

伊能忠敬研究会

・伊能忠敬研究 第40号

浦添市教育委員会

・よのつじ 浦添市文化紀要 第3号

浦幌町立博物館

・浦幌町立博物館 年報 第7号

・浦幌町立博物館 紀要 第7号

エコミュージアムおさしまセンターBIKKY

アトリエ3モア

・3モア通信 Vol.4

えりも町教育委員会

・潮風とともに えりも 昔語り 記録集

小樽市博物館

・小樽市博物館紀要 第20号

小樽商科大学百年史編纂室

・小樽商科大学史紀要 創刊号

・帯広百年記念館紀要 第25号

音楽之友社

・日本音楽基本用語辞典

学習院大学史料館

・ミュージアム・レター 第3、4号

・学習院大学史料館紀要 第14号

神奈川大学日本常民文化研究所

・歴史と民俗 神奈川大学日本常民文化研究所論集23

・民具マンスリー 第39巻第12号、第40巻第1～3号

川田順造(著)

・文化人類学とは何か〔『文化人類学』第71巻第3号別刷〕

・サバンナの博物誌

行政管理研究センター

・季刊 情報公開・個人情報保護 Vol.24

釧路公立大学

・釧路公立大学紀要 人文・自然科学研究 第19号

群馬県立文書館

・群馬県立文書館年報 平成18年度版

高知県立牧野植物園

・高知県立牧野植物園だより No.29、30

・高知県立牧野植物園年報 第6号

神戸市立博物館

・神戸市立博物館だより No.91

・神戸市立博物館年報 No.22

国土交通省国土地理院

・平成18年度 「測量の日」関連行事 実施記録

国立公文書館

・アーカイブズ 第22号～第25号、第28号

国立民族学博物館

・月刊みんぱく 第30巻第7、12号、第31巻第1、2、5～8号

・国立民族学博物館研究報告 第31巻第3号、第4号

・民博通信 No.116、117

札幌大谷短期大学

・札幌大谷短期大学紀要 第37号

札幌学院大学学芸員課程

・札幌学院大学学芸員課程 年報 20

札幌国際大学

・札幌国際大学紀要 第38号

札幌市文化資料室(札幌市教育委員会)

・文化資料室ニュース 第2号

・札幌の歴史 第52号

札幌大学ペリフェリア・文化学研究所

・ものが語る歴史シリーズ13 アイヌのクマ送りの世界

沙流川歴史館

・沙流川歴史館だより No.25、26

・沙流川歴史館年報 第8号

滋賀県立琵琶湖博物館

・琵琶湖お魚ネットワーク 報告書

・うみんど 琵琶湖博物館だより 第42、43号

滋賀大学経済学部附属史料館

・滋賀大学経済学部附属史料館研究紀要 第40号

『四宅ヤエの伝承』刊行会

・富水慶一採録 四宅ヤエの伝承 歌謡・散文編

標準町教育委員会

・史跡標準遺跡群 伊茶仁カリカリウス遺跡

下妻市ふるさと博物館

・下妻市ふるさと博物館年報 第8号

・下妻市ふるさと博物館研究紀要 第3号

斜里町立知床博物館

・知床博物館研究報告 第28集

城西国際大学物質文化研究センター

・物質文化研究 第4号

鈴木哲雄(著)

・アイヌの歴史文化学習の課題と可能性

〔『北海道教育大学紀要(教育科学編)』第57巻第2号抜刷〕

世界思想社

・現代文化人類学の課題 北方研究からみる

世界人権宣言大阪連絡会議

・世界人権宣言大阪連絡会議ニュース No.294～299

・国際人権ひろば No.74

先住民族の10年市民連絡会

・先住民族の10年News 第132～136号

草風館

・ロシア民族学博物館所蔵アイヌ資料目録

高清水康博(著・共著)

・北海道における津波に関するアイヌの口碑伝説と記録〔『歴史地震』第20号抜刷〕

・北海道鶴川町における津波に関するアイヌの口碑伝説と祭儀〔北海道立地質研究所報告』第76号別刷〕

・北海道における地震に関するアイヌの口碑伝説と歴史記録〔『歴史地震』第21号抜刷〕

・北海道胆振海岸東部から確認された17世紀の津波堆積物〔『第四紀研究』第46巻第2号抜刷〕

千葉大学大学院人文社会科学部

・ユーラシアにおける精神文化の研究

鶴居村教育委員会

・下幌呂15遺跡発掘調査報告書

東海教育研究所

・望星 第38巻第6、7号

東京外国語大学(記述言語学研究室ほか)

・東京外国語大学記述言語学論集 思言 第2号

・ナーナイ語の形動詞について

東京都江戸東京博物館

・江戸東京博物館NEWS Vol.57、58

・東京都江戸東京博物館研究報告 第13号

東北芸術工科大学東北文化研究センター

・東北芸術工科大学東北文化研究センター研究紀要 第3号

・東北芸術工科大学東北文化研究センター研究紀要 第5号

・東北芸術工科大学東北文化研究センター研究紀要 第6号

・東アジアのなかの日本文化に関する総合的な研究 I

・東アジアのなかの日本文化に関する総合的な研究 II

・東アジアのなかの日本文化に関する総合的な研究 III

・季刊東北学 第11、12号

・まんだら Vol.31、32

・東文研通信 No.1

東北大学東北アジア研究センター

・東アジア出版文化の研究に係る研究成果等の社会公表 東北アジアアラカルト 第15号

・ノア・データベースの利用による東北アジアの環境変動解析とデータベース作成に関する学際的研究 東北アジア研究センター叢書 第22号

・東北大学東北アジア研究センター〔要覧〕

・東北大学東北アジア研究センター ニューズレター CNEAS 第31号、第32号

東北電力広報・地域交流部

・白い国の詩 通巻598、599号

東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館

・芹沢銈介コレクション

遠野物語研究所

・遠野物語研究 第10号

・東北日本の食 遠野物語ゼミナール2006 講義記録

徳島県立文書館
 ・第32回資料紹介展 人物写真にみる 徳島の近代
 ・第33回企画展 村の公文書
 ・徳島県立文書館年報 第10号
 ・文書館だより 第28号

苫小牧駒澤大学
 ・苫小牧駒澤大学紀要 第17号

苫小牧市博物館
 ・苫小牧市博物館だより No.56
 ・館報 第3号

富山県 [立山博物館]
 ・富山県 [立山博物館] 研究紀要 第14号
 ・富山県 [立山博物館] 年報 2007年 第16号

豊頃町教育委員会 (大津・十勝川学会)
 ・十勝の歴史と文化 若林三郎の著作と研究

中川裕、中本ムツ子
 ・カムイユカラでアイヌ語を学ぶ

長野県立歴史館
 ・長野県立歴史館だより Vol.50、51
 ・長野県立歴史館研究紀要 第13号
 ・平成19年度夏季展 絵地図の魅力

名寄市北国博物館
 ・名寄市北国博物館所蔵資料目録2 民族資料目録II

奈良県立民俗博物館
 ・奈良県立民俗博物館だより Vol.32 No.1、Vol.33No.1

成田修一
 ・『改正蝦夷図』所収のアイヌ語について 鳴海英之
 ・日本語とアイヌ語の起源

南山大学人類学博物館
 ・南山大学人類学博物館紀要 第25号
 ・南山大学人類学博物館オープンリサーチセンター 2006年度年次報告書
 ・南山大学人類学博物館オープンリサーチセンター 2007年度年次報告書 付編 研究会・シンポジウム資料
 ・南山大学人類学博物館年報 2006年度

新潟大学災害復興科学センターアーカイブズ分野
 ・災害と資料 第1号

沼津市明治史料館
 ・沼津市明治史料館通信Vol.23 No.1、2

根室市自然と歴史の資料館
 ・根室市自然と歴史の資料館紀要 第21号
 ・くるまいし 根室市自然と歴史の資料館だより No.22

登別市教育委員会
 ・のぼりべつの文化財 [第2版]

函館市教育委員会、函館市埋蔵文化財事業団
 ・垣ノ島A遺跡
 ・史跡大船遺跡
 ・著保内野遺跡
 ・函館市白尻C遺跡
 ・函館市豊崎C遺跡

函館市史編さん室
 ・函館市史 年表編
 ・はこだて市史編さん室だより

反差別国際運動日本委員会
 ・IMADR-JC通信 NO.147~149

平取町立二風谷アイヌ文化博物館
 ・北海道二風谷及び周辺地域のアイヌ生活用具コレクション 国指定重要有形民俗文化財調査報告書
 ・平取町立二風谷アイヌ文化博物館年報 2005年度

広島市公文書館
 ・広島市公文書館所蔵資料目録 第37集
 ・受贈資料目録II

藤女子大学国語国文学会
 ・藤女子大学国文学雑誌 第76号

仏教大学文学部
 ・文学部論集 第91号

部落解放・人権研究所
 ・研究所通信 No.343~345、号外、346、347

文化学園図書館
 ・図書館だより No.144

平凡社
 ・『世界大百科事典』アイヌ関連項目集

別海町郷土資料館
 ・加賀家文書 現代語訳版第4巻
 ・別海町郷土資料館だより No.81~92

法政大学国際日本学研究所
 ・アイヌ文化の成立と変容:交易と交流を中心として(澤登寛聡、小口雅史編)

北海道学園大学
 ・北海道学園大学 学園通信 第131、132号

北海道ウタリ協会
 ・世代間交流事業報告書 2006

北海道ウタリ協会札幌支部
 ・アイヌ女性実態調査報告書
 ・アイヌ女性のエンパワーメント ウコパルイ
 ・アイヌ女性・部落女性・在日朝鮮人女性 アンケート調査報告書(アイヌ女性実態調査プロジェクト、部落解放同盟中央女性対策部、北海道ウタリ協会札幌支部、反差別国際運動日本委員会編)

北海道開拓記念館
 ・北海道開拓記念館研究紀要 第35号
 ・北海道開拓記念館調査報告 第46号
 ・北海道開拓記念館だより Vol.36 No.3、No.4
 ・北海道開拓記念館要覧 平成18年度

北海道環境財団
 ・北海道環境サポートセンター月刊ニューズレター-TGAL No.112~117
 ・ESDつながるためのキーワード
 ・2006年度活動報告書

北海道環境生活部アイヌ施策推進津
 ・平成18年 北海道アイヌ生活実態調査報告書

北海道教育委員会
 ・平成18年度アイヌ民俗文化財調査報告書 伝承聞き取り調査III
 ・アイヌ民俗文化財 ユーカラシリーズ29
 ・知里真志保フィールドノート(6)

北海道大学総合博物館
 ・北千島研究の系譜 千島列島の過去・現在・未来
 ・北海道大学総合博物館ニュース 第15号

北海道大学大学院教育学研究科教育福祉論分野
 ・教育福祉研究 第13号

北海道大学大学院文学研究科
 ・環北太平洋の言語 第14号
 ・ツングース言語文化論集35 ウデヘ語テキスト3
 ・ツングース言語文化論集36 ナーナイの民話と伝説10
 ・ツングース言語文化論集37 ソロンの民話と伝説1
 ・ウデヘ語の「複数」を示す要素について [論文コピー]
 ・北アジアの諸言語にかんする注釈つき年代別文献リスト [コピー]
 ・北大文学研究科公開シンポジウム 「北方的 北方研究の構築と展開」報告書
 ・北方圏の考古学I

北海道文化財保護協会
 ・文化情報 第299~302号
 ・北海道の文化 No.79

北海道埋蔵文化財センター
 ・調査年報 19 平成18年度
 ・白滝遺跡群VII 北海道埋蔵文化財センター調査報告書第236集

・北斗市 館野遺跡(1) 北海道埋蔵文化財センター調査報告書第237集 [3分冊]
 ・千歳市祝梅川上田遺跡・梅川2遺跡 北海道埋蔵文化財センター調査報告書第238集
 ・占冠村 占冠原野1遺跡
 ・江別市対雁2遺跡(9) 北海道埋蔵文化財センター調査報告書第240集
 ・白老町虎杖浜2遺跡(3) 北海道埋蔵文化財センター調査報告書第241集
 ・赤井川村板小屋沢遺跡・日の出2遺跡 北海道埋蔵文化財センター調査報告書第242集
 ・下川町 前サンル1遺跡 北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第243集
 ・北斗市矢不來8遺跡(2)・矢不來10遺跡 北海道埋蔵文化財センター調査報告書第244集
 ・白糠町上茶路遺跡 北海道埋蔵文化財センター調査報告書第245集
 ・森町濁川左岸遺跡(3) 北海道埋蔵文化財センター調査報告書第246号
 ・森町石倉1遺跡 北海道埋蔵文化財センター調査報告書第247集

北海道立北方民族博物館
 ・北方民族博物館だより No.65

北海道立工業試験場
 ・北工試だより Vol.30No.1

北海道立中央農業試験場
 ・平成19年 農業新技術発表会要旨(第25回)
 ・北海道立農業試験場報告 第113号、第114号

北海道立図書館
 ・北の資料117 北海道立図書館所蔵 林家文書 追加目録
 ・北の資料118 北海道立図書館所蔵道内市町村勢要覧等目録

北海道立北方民族博物館
 ・北方民族博物館だより No.64
 ・北海道立北方民族博物館研究紀要 第16号
 ・北太平洋の文化 北方地域の博物館と民族文化 第21回北方民族文化シンポジウム報告書

北海道立文書館
 ・北海道立文書館史料集 第22 北海道庁例規集 第I期 庁令布達編(9) 明治29年

北海道立地質研究所
 ・北海道立地質研究所年報 平成17年度

室蘭市 港の文学館
 ・むろらん 港の文学館通信 Vol.14

明治書院
 ・日本語学 第26巻第3号

盛岡市先人記念館
 ・盛岡市先人記念館だより No.38

ヤイユカラの森
 ・Yay Yukar Park56

歴史伝承委員会
 ・歴史伝承委員会調査報告書 第3号(通巻第8号)
 ・歴史伝承委員会だより 第7号

留萌市海のふるさと館
 ・留萌市海のふるさと館 紀要 第18号
 ・生物1 留萌市海のふるさと館収蔵資料目録12

和歌山県立文書館
 ・和歌山県立文書館紀要 第12号

【海外】
中央研究院民族学研究所
 ・台湾人類学刊 第4巻第2期

Smithsonian Institution National Museum of Natural History
 ・Arctic Studies Center Newsletter No.14

行事など

●企画展「アイヌ語地名を歩く

—山田秀三の地名研究から—

9月2～22日に苫小牧市中央図書館にて開催した企画展が終了しました。会期中の関連行事として、9月2日の講座「近世のアイヌ語資料『もしほ草』について」(講師：佐藤知己氏・北海道大学准教授)には約40名の参加を、9月8日の講演会「アイヌの物語世界と地名」(講師：中川裕氏・千葉大学教授)には約150名の参加をいただきました。



苫小牧の会場



9月8日の講演会

現在は日高町と室蘭市で開催しているほか、10月中旬には伊達市でも開催します。

多くの皆さまのご来場をお待ちしています。

■場所・期間 *入場無料

- ・室蘭市文化センター 9月27日(木)～10月8日(月)
- ・伊達市だて歴史の杜カルチャーセンター
10月11日(木)～10月14日(日)
- ・日高町立門別図書館郷土資料館
9月11日(火)～10月14日(日)

■関連事業(講演会・講座) *入場無料

- 10月6日(土)15:00～17:00 室蘭市文化センター
「上と下 —アイヌの地理的認識—」
切替英雄(北海学園大学准教授)
- 10月13日(土)15:00～17:30 だて歴史の杜カルチャーセンター
「伊達地方のアイヌ語・アイヌ文化」
本田優子(札幌大学教授)
佐藤知己(北海道大学准教授)
伊達市噴火湾文化研究所職員、センター職員

●「2007サイエンスパーク」

7月31日(火)、北海道と独立行政法人科学技術振興機構の共催による「2007 サイエンスパーク」がサッポロファクトリー(札幌市中央区)で開催され、およそ7000人の来場がありました。

当センターも昨年に引き続き参加し、アイヌ語地名などのパネル展示のほか、「体験コーナー」でのムックリの指導、「科学クイズ大会」への出題などを行いました。

詳細はセンターのホームページで紹介しています。

センターの刊行物

平成19年4月から9月までに、この『センターだより』27号のほか、次の刊行物を発行しました。

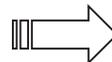
- ・『北海道立アイヌ民族文化研究センター年報2006(平成18年度)』(19年6月発行)
 - ・企画展図録『アイヌ語地名を歩く —山田秀三の地名研究から—』(19年8月発行)
 - ・企画展図録別冊『アイヌ語地名を歩く —山田秀三の地名研究から—2007・胆振/日高』(19年8月発行)
- 『年報』と『センターだより』は、センターのホームページからご覧いただけます。センターだより27号は、発行日から約2週間後に掲載します。

企画展図録は、企画展会場及び草風館(047-723-1688)で販売しています(本冊¥1050、別冊¥210。いずれも税込み)。

平成19年度前半の動き

■行事など

- ・「北海道内の主要アイヌ資料の再検討」研究会
(札幌市/参加：古原/7月)
- ・企画展「アイヌ語地名を歩く —山田秀三の地名研究から— 2007・胆振/日高」
(白老町・平取町/8～9月、苫小牧市/9月、日高町・室蘭市/9～10月)
- ・講座「近世のアイヌ語資料『もしほ草』について」
(苫小牧市/講師：佐藤知己氏/9月)
- ・講演会「アイヌの物語世界と地名」
(苫小牧市/講師：中川裕氏/9月)
- ・講座「山田秀三文庫の地名調査資料について」
(苫小牧市・室蘭市/講師：古原・小川/9月)
- ・平成19年度研究センター運営協議会
(苫小牧市/9月)



センターのホームページ(webサイト)更新の「お知らせメール」の送信を始めました。ご希望の方は、サイト内のレファレンスフォームから申し込むか、またはセンターまで直接ご連絡ください。

編集・発行 北海道立アイヌ民族文化研究センター

2007年9月28日

〒060-0001 札幌市中央区北1条西7丁目 プレスト1・7 5階

電話 011-272-8801(代) FAX 011-272-8850

月～金/9:00～17:00(土・日・祝日/休)

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/abc>

この広報紙は、環境に配慮した用紙を使用しています(古紙配合率100%、白色度70%)。